

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立岡山南高等学校		
実践者等	藤森 迅登	実践日	令和4年5月31日
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)	数学・数学I (1次不等式)		
対象生徒(学年等)	1年生(商業科)		
育成を目指す資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input checked="" type="checkbox"/> 思考力・判断力・表現力等 <input checked="" type="checkbox"/> 学びに向かう力・人間性等		
分類	授業中	<input checked="" type="checkbox"/> クラウドやアプリの活用 <input checked="" type="checkbox"/> デジタルデータの保存 <input checked="" type="checkbox"/> 思考やデータの可視化	
		<input checked="" type="checkbox"/> データの共有や共同編集 <input type="checkbox"/> 対話を充実させる活用 <input checked="" type="checkbox"/> 思考を促す活用	
家庭学習		<input checked="" type="checkbox"/> 表現を充実させる活用 <input checked="" type="checkbox"/> 課題のやり取りと評価の支援 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化や省力化	
		<input type="checkbox"/> その他()	
<input checked="" type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 探究 <input checked="" type="checkbox"/> 反転学習 <input checked="" type="checkbox"/> 補習・定着			

実践の内容

【授業】

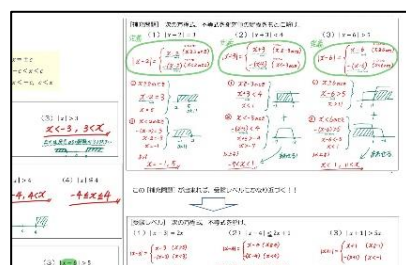
(1) 既習事項の復習をさせる

- ・ ワークショップアプリ(Mentimeter)で、自身の考えをアウトプットしながら既習事項の復習をする機会を与える。



(2) 問題の演習をさせる。

- ・ 最初は各自問題を解答させる。
- ・ ペアで解答や思考の様相を共有する。
- ・ 進度が早い生徒にはClassroomで解答を共有して、次の問題やステップに進められるようにする。



(3) 問題の解説をする。

- ・ デジタルデータとして板書の記録を残すことで、再度提示が出来るようにする。
- ・ 解説を聞き逃しても、後で確認できるようにClassroomで解答を共有する。

(4) 本時のポイントの振り返りをして、まとめをさせる。

- ・ kami を用いてPDF データにまとめを記録する。

【本時と家庭学習との連動】

(本時前)

- ・ 事前の演習もあらかじめ解答を共有することで、その場で自分の解けなかった部分を知り、授業を受ける準備をする。

(本時後)

- ・ PDF に書き込んだ内容を見返すことで、ポイントを絞った復習をする。
- ・ テスト前に授業全体の流れを確認しながら系統的に復習をする。

